共催 明治大学国際連携本部

申込不要
入場無料

パウル・クレーの両面作品

国際交流講演会

パウル・クレー(1879-1940)は60年の生涯で9600点もの作品を制作した。そのうち約600点の作品の裏側には、素描、水彩画、油彩画が残されている。これは、画材の節約という経済的な理由からも、破棄された絵が裏側に残っていたという偶然としても説明できない事象である。クレーの芸術理解からすると「作品」とは、完成という静的な一点からではなく、有機的・動的なプロセスから把握されるべきものであり、その意味で、両面作品の制作プロセスを解明することは、「存在」よりも「生成」を重んじた画家の本性に迫ることを意味する。クレー自身、創作の奥底にある秘密がいつの日か明るみに出ることを自覚していたとも思われる。クレーにおいて、芸術作品の根源を究明しようとする営みは、予測のつかない未来へと投げかけられ、作品は画家の死後も、常に「生成」の途上にあり続けるのである。本講演では、2024年にチューリヒ大学に提出された博士論文の最新の成果に基づき、どの近代芸術家とも比べものにならないほどに、作品の表と裏を構造的・内容的に関連づけたパウル・クレーの多層的かつ形而上学的な絵画制作方法を、スイスのパウル・クレー・センターに所蔵された多数の作品を事例に解説する。

講師

柿沼万里江 氏

パウル・クレー・センター研究員

2025年
7月22日（火）
15：20～17：00

明治大学駿河台キャンパス
リバティタワー13階 1135教室
使用言語：日本語

Contact us

文学部 新本史斉研究室
niimoto@meiji.ac.jp